

< 小規模多機能型居宅介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670104498
法人名	株式会社 メディコーブ
事業所名	グループホームおあしす
訪問調査日	平成20年4月9日
評価確定日	平成20年7月9日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 4月 16日

【評価実施概要】

事業所番号	4670104498
法人名	株式会社 メディコープ
事業所名	グループホームおあしす
所在地	鹿児島市谷山中央六丁目27番5号 (電話)099-263-1771

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48-13		
訪問調査日	平成20年4月9日	評価確定日	平成20年7月9日

【情報提供票より】(20年 3月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 8 月 3 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	13 人, 非常勤 5人, 常勤換算 15.4 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り 3 階建ての 1 階 ~ 3 階部分
------	-----------------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1000 円			

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	8 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.4 歳	最低	66 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	総合病院鹿児島生協病院、谷山生協クリニック
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利便性の高い住宅地に位置し、スーパーや公園、駅などからも近く、買い物や散歩も日常的に支援できる環境にある。利用者の健康管理や病気治療、緊急時の対応はもちろんの事、重度化した場合や終末期における看取りに至るまで、協力医療機関や訪問看護ステーションとの連携・協力体制が確立されている。利用開始に当たっては家族が利用者にしてあげたい事を事前チェック表で押さえ、家族と利用者との円満な関係作りに配慮している。管理者・職員は自分達の都合を優先せず、「待つこと」を大切に日々、サービスの質の向上に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	年間研修計画を作成し、多くの職員が参加している。また家族の面会時には、サービス内容の具体的な記録を見てもらうなど、家族のニーズに合わせた報告を行っている。その他の改善課題についても改善が図られている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や活用方法を管理者はもとより職員が理解しており、今回の自己評価も協力して取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議において、前回の会議報告・利用者の状況・企画行事・地域連携について話し合いをもっている。地域の代表者や家族からの質問や意見に加え、利用者代表も出席し、発言している。今回は災害支援法に關連してどのように対応されるか、面会は子ども同伴が望ましいのではないか、など、活発な意見が出され、有意義な会議になっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	管理者や職員は話しやすい関係、雰囲気作りを行っている。家族会や運営推進会議、面会時において意見や苦情、不安に関する聞き取りや対応が行われている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の一員として町内会に加入し、地域の行事にも積極的に参加している。地元の中、高校生の職場体験学習やボランティアを受け入れている。また、地域高齢者の「ふれあい会食」でホームの見学や認知症の学習会も行われるなど、地元の人々との交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関係を含めた理念と生活協同組合の理念である「協働」と「助け合い」の精神を大切にするホームを目指して、事業所独自のものを作り上げている。		各ユニット内の短期的指針を職員全員で作成し、共有化し、目標達成感を感じる日々の取り組みに期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員のネームの裏に基本理念を書いたカードを入れて毎朝の申し送りやミーティングの後に唱和し、実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域のお祭りなどに参加している。地域高齢者の「ふれあい会食」でホームの見学や認知症の学習会を実施している。校区の中学校・高校生の「職場体験学習」「施設実習」なども受け入れ、交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価の意義を理解している。自己評価は各ユニット間の職員全員で取り組み、また外部評価結果は職員間で話し合い、サービスの質向上に活かしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催されている。メンバーの中に利用者も入り、意見を述べている。地域包括支援センターの出席もあり、会議では評価結果や介護活動の状況など報告、また意見や助言・要望なども出て、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者に高齢者福祉事業の活用や生活保護受給者の処遇についての相談などを行い、また、包括支援センターとの連携を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、おあしす便りを発行し、利用者の日々の暮らしぶり・身体状況並びに企画・行事を報告している。面会時にはサービス内容の記録を見てもらい、家族のニーズに対応している。金銭出納帳は面会時に確認とサインをもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議等で意見や苦情を率直に出してもらっている。出された要望などは職員と話し合い、管理者が責任をもって対応し、運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者はなじみの職員が対応する事の重要さを理解し、異動や離職も最小限に抑えるように努力している。やむをえない異動の際には利用者との関係づくりや引継ぎに充分配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、法人内のグループホーム合同事例検討会を実施している。外部研修にも多くの職員が参加し、研修後の報告を行ない、共有できている。職員の資格取得を奨励し、勤務の調整などに配慮している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、研修会に職員も参加している。また、地域のグループホーム間でも定期的に学習会や交流を行い、介護の質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始にあたっては相談から始まり、本人と家族によるホームの見学・面談など一定の期間をかけて段階的に行っている。本人・家族と密に面会し、本人が安心感をもって入居できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に対して傾聴を大切に感情表現や行動などを含めて「気付き」を重視している。生活場面で利用者から教えて貰う機会を意識的に作り、利用者個人の役割が自信に繋がるよう支援している。職員・利用者がお互いに助け合う関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行為・表情から利用者の思いや希望などの把握に努めている。把握が難しい利用者は家族からの情報と職員それぞれの「気付き」を生かし、介護に反映させている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思い・希望を把握し、計画作成担当者と職員で意見交換を行い、プランを共有しながら利用者本意の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた定期的な見直しを行っている。また、状態が変化した場合には改めて検討・見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして利用者の状態や家族の状況に合わせて定期や臨時の往診・受診など柔軟に対応している。利用者の状況を考慮し、できるだけ外来受診で対応し、入院になっても早期退院が出来るように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望しているかかりつけ医の受診を支援している。日頃からかかりつけ医に利用者の健康状態について連絡・相談できる関係ができています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の指針を作成し、利用開始時に時間をかけて説明している。家族・本人の意思を尊重し、話し合いを継続しながら全員で方針を共有している。本人・家族にとって納得の得られる終末期を過ごせるよう支援している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常的に管理者は利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応への徹底に取り組んでいる。個人情報の扱いについては採用時に職員に理解させ、徹底を図っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の日課はあるが、一人ひとりのペースや思いを大切にしながら食事時間・散歩・買い物・入浴など職員は柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を取り入れている。職員は利用者と一緒に調理・盛付・配膳・片付けなど一緒に行いながら、同じテーブルを囲んでサポートしながら楽しく食事している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は個別の希望に配慮しながら支援している。入浴嫌いの利用者にはお手洗いにいった際や散歩後に誘導するなど工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの力(趣味・特技)を發揮してもらい、喜びや自信が持てるように支援している。利用者によっては、新聞や雑誌を好んで読んでいる。利用者の希望も取り入れ、ドライブやホーム外での行事・企画も積極的に行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買い物・ドライブなど日常的に外出支援している。歩行困難な利用者も車椅子や自動車で外出する機会を作り、ホームに閉じこもらない工夫をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないように努めているが、利用者の状態によっては安全の為、鍵をかけることもある。外出願望の強い利用者には職員が必ず付き添っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回(昼間・夜間帯)消防署の協力・指導を受けて定期的に避難訓練(避難方法の確認・消火器の使い方・通報など)を行っている。自動火災報知設備や消防署直通の火災通報装置も設置している。		交番との連携、地域の協力体制づくりが望まれる。運営推進委員会の議題に災害対策を取り上げるなど、検討されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量をチェックしている。協力医療機関の管理栄養士が定期的に献立の点検を実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間に隣接するキッチンから野菜を刻む音や料理の匂いなど五感を刺激する生活感や季節感を意識的に取り入れられるよう配慮がなされている。照明も柔らかいものを設置し、夜間正面から入ってくる自動車の強いライトを遮光するカーテンを設けている。また時計や鮮やかな手作りカレンダーも共同空間にマッチして居心地よく過ごせる工夫がなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洗面所つきで使い慣れた家具や小物類・アルバム・ラジオ・テレビなどなじみの物が持ち込まれている。また利用者の身体状況に合わせて畳にしたりして、その人らしく安心して過ごせる配慮がなされている。		